



平成 14 年 8 月 5 日

報道各位

モバイルによる商店街活性化プロジェクト
事務局：株式会社日本総合研究所

モバイルを活用した商店街活性化プロジェクトのお知らせ

株式会社日本総合研究所（本社 東京都千代田区、社長 奥山 俊一）は、慶應義塾大学 S F C 研究所と、「モバイルを活用した都心型商店街の活性化モデルの構築」をテーマに共同研究プロジェクトを平成 14 年 5 月より進めています。このたび、研究活動の一環として、ケータイを使って商店街の情報を発信する実証実験を平成 14 年 10 月 1 日より開始いたします（8 月 5 日より実験モニターを募集）。

1. プロジェクト開始の経緯

商店街は、その地域の住民の日常生活を支える商業集積として重要な機能を担ってきました。

しかし、消費者行動の変化や商業集積同士の競争が激化する中、存亡の危機に立たされている商店街も少なくなく、一種の社会問題となっています。

日本総合研究所では、これまでに取り組んできた「商業者と住民のパートナーシップ形成によるまちづくり」プロジェクトの実績をバックグラウンドに、最新の IT 技術を活用したマーケティング手法を用いて商店街活性化策の調査研究を企画しました。

尚、研究を進めるに当たっては、情報通信分野の研究で定評のある慶應義塾大学 S F C 研究所とプロジェクトチームを編成し、商店街と来訪者をつなぐ「情報ネットワーク」の構築を図ります。

2. プロジェクトの特徴

今回の研究の特徴は以下の 3 点です。

（１）都市型の商店街を研究対象とします。

都市には、歴史や文化を背景に持ち、魅力ある専門店を有しながらも、都市再生の大規模開発プロジェクトが増加する中で、商業活性化の方向性を見出せない状況にあります。当プロジェクトは、衰退傾向にある「都心型商店街」にスポットを当て、調査研究を行います。

(2) ケータイ (携帯電話) を活用した活性化モデルの構築を図ります。

ケータイは、i モードの発売以来、我々の生活に深く浸透し、モバイル機器の代名詞となっています。当プロジェクトを通して、ケータイの「マーケティングツール」としての可能性や活用策について、調査研究を行います。

(3) 日本橋の一步会商店街に協力を頂き、実証実験を行います。

日本橋は、街として高いポテンシャルを有しているものの、それを十分に活かしきれていない「都心型商店街」の典型と言えます。日本橋には、伝統ある老舗、実績あるタウン誌に加えて、商業者とビジネスマン・OL による日本橋活性化フォーラムなどが始動しており、新しい商店街活性化モデルの実証研究の舞台が整っています。

3. 実証実験の紹介

当プロジェクトの研究活動の一環として、日本橋の商店街 (一步会) から近隣で働くビジネスマン・OL に対して、ケータイ・メールによる情報発信を行う実験を、以下の要領で実施します。

(1) メール配信対象

日本橋に勤務するビジネスマン・OL (モニターは 300 名を予定)

(2) メール配信方法

モニターの i モード携帯電話にケータイ・メールを配信

(3) 実験期間

平成 14 年 10 月 1 日 ~ 12 月 31 日 (予定)

(4) モニターの応募方法

インターネットホームページでモニター登録 <http://www.nihon-bashi.jp/>

登録期間は平成 14 年 8 月 5 日 ~ 9 月 10 日 (希望者多数の場合は抽選)

タウン誌「月刊日本橋」「中央区 fan」に募集広告を掲載予定

(5) 配信するメールのイメージ

- 日本古来の「健康生活」や商品を利用した「ダイエット」支援メール
- 老舗商店のこだわりの一品、商品の由来マメ知識
- 会社帰りの「最初の一杯」割引クーポン
- モニターだけの特別セット商品情報
- 一工夫のある食材調理法
- 老舗商店からの「新商品試食」お誘いメール
- 日本橋商店街イベント情報 等

4.プロジェクト参加者

モバイルによる商店街活性化プロジェクト

事務局：株式会社日本総合研究所

参加機関：慶應義塾大学 SFC 研究所

協力組織：日本橋一步会

協賛企業：株式会社三越

5.問合せ窓口

株式会社日本総合研究所「てくりん日本橋」事務局

担当：研究事業本部 まちづくりマーケティングクラスター（金子、宮田、上田、瀬上）

Tel 03-3288-4172・4106 / e-mail : mmc@nihon-bashi.jp

以上